

# 令和5年度 海洋プラスチックごみ等流出抑制対策事業の結果概要について

[環境政策課]

## 1 事業の目的

環境省の調査によると、海洋ごみの8割は陸域で発生したごみが河川等を通じて海に流出したものであるとの報告がされていることから、市内の準用河川にオイルフェンスを設置して、流れるごみを回収してその実態を把握する。また、小学生を対象とした特別授業を実施したほか、海洋ごみ削減に向けた川上から川下までの取り組みとして、「トヤマサステナブルアクション！」を開催し、海洋ごみ問題の普及啓発を図る。

## 2 取組概要

### (1) <オイルフェンスの設置>

がめ川にオイルフェンスを2カ月間設置した。設置は24時間。ごみの回収については毎週金曜日の週1回を基本とし、荒天等による増水が予想された時にも事前のごみの回収を行った。

箇所	設置したもの	設置期間	管理主体
がめ川	オイルフェンス※	R5.7.28~R5.9.29	市道路河川管理課

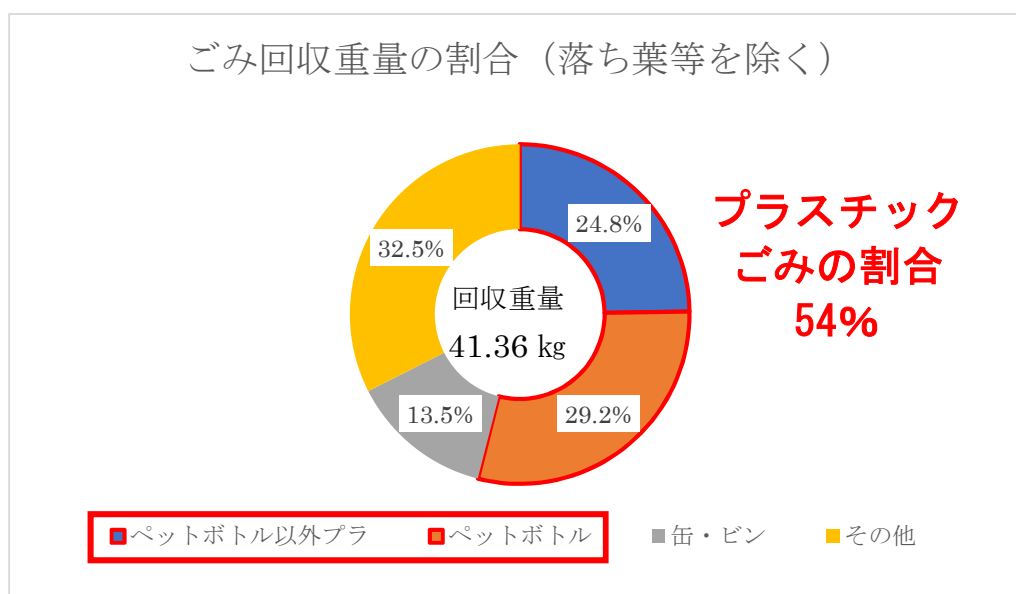
※オイルフェンス…水に浮き、水面の油などの流出を防ぐためのもの。ペットボトルなど水に浮く軽いものを回収するのに適している。



### <回収結果>

重量の合計は、「ペットボトル以外のプラスチック」が10.24kg、「ペットボトル」が12.08kg、「缶・ビン」は5.60kg、「その他」は13.44kgとなっている。

重量の割合（落ち葉等を除く）については、「ペットボトル以外のプラスチック」が24.8%、「ペットボトル」が29.2%、「缶・ビン」は13.5%、「その他」は32.5%となっている。



今回調査した結果、河川に直接ポイ捨てされたもの以外に、道路にポイ捨てされたものが雨風により河川に落ち海洋ごみになっていると考えられる。また、外に置いてあるごみ箱やごみ集積所の溢れたごみが十分に管理されないまま川に流れ込んでしまうことも考えられる。



週1回で回収されたペットボトル



中にはサンダルも



パジャマのズボン



かばんや財布



手つかずの野菜

## (2) <小学生への特別授業>

環境教育の一環として、市では小学4～6年生を対象に「海洋ごみに関する小学生への特別授業」を行っている。令和5年度は3校（上滝小学校、柳町小学校、速星小学校）で実施し計142人の児童が参加した。

また、上滝小学校と柳町小学校については校区に海洋ごみにつながるごみが落ちていないか調べる「ごみマップ作製」、その調査結果を発表し合う「特別交流会」も実施した。

### ① バスツアー（上滝小学校、柳町小学校、速星小学校）

知る

まず、がめ川に設置してあるオイルフェンスを見学し、街中を流れる河川にごみが行っている現状を学んだ。その後岩瀬浜でのごみ拾いを通じて、どのくらいのごみが海に流れ着いているかを知った。ツアー最後にはまとめの講義を受け、海洋ごみについての知識を深めた。



オイルフェンスの見学



岩瀬浜でのごみ拾い



海洋ごみの講義

学ぶ

## ② ごみマップ作製（上滝小学校、柳町小学校）

海洋ごみにつながるごみが自分たちの校区に落ちていないかを調査した。自分たちの通学路に、実はごみが多く落ちていることを学んだ。



校区のごみを調査



調査で回収されたごみ

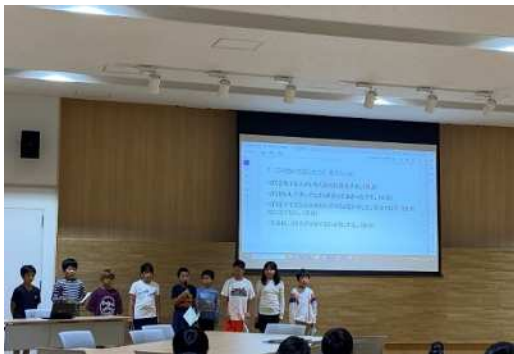


調査で気づいたことを共有

伝える

## ③ 海洋ごみに関する特別交流会（上滝小学校、柳町小学校）

ごみマップ作製の調査結果を発表し合う特別交流会を実施した。発表後は両校の児童がそれぞれ他校の発表を聞いた感想や、海洋ごみを減らすためにどのようなことをすればよいか話し合った。



## （3）＜「トヤマサステナブルアクション！」の開催＞

広く市民に海洋ごみ問題について興味・関心をもってもらうため、令和5年10月21日（土）、10月22日（日）2日間に中山間地域から海沿いの各場所で「トヤマサステナブルアクション！」を開催した。



### サステナブルデイキャンプ （川上・中山間地域）

環境に優しい木質ペレットを使ったピザづくりや、ソーラーライトづくり、水素エネルギーロケット体験などに挑戦した。



### 海洋ごみについて考えるフォーラム （川の中流域・市街地）

芸能界随一の海洋生物好きであるココリコ田中直樹さんを迎え、ゲストトークやパネルディスカッションなどを行った。



### クリーンアップアクション in 岩瀬浜 （川下・海）

マイクロプラスチックの収集体験や海岸清掃で集まったごみを分別し「見える化」を行った。